

高等学校における『通級による指導』の取り組み

和歌山県立有田中央高等学校 教諭 井上 里佳

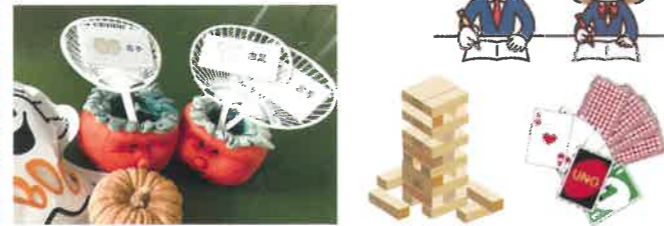
高 高等学校における「通級による指導」が平成30年から制度化されました。和歌山県では、令和4年度現在8校に導入されています（内、2校は巡回によるもの）。各校の特色が活かされており、有田中央高等学校では、学校全体で行う「個々の生徒の実態に応じた指導・支援」のひとつとして『通級による指導』が、位置づけられています。今回は、有田中央高等学校での『通級による指導』の取り組みの一部を紹介します。

支援の工夫を考える —



生徒が、通級担当教員やスクールカウンセラーと一緒に、自分に必要な支援の工夫を探究します。教科や部活担当教員など、様々な教員に相談を持ちかけていきます。

小集団による学習 —



ゲームの盛り上がりの中で、他者と関わり、失敗・成功体験から、学びを得ます。学びを日常に般化できることを狙います。

フィンスカ(モルック)大会 in 文化祭 —



自分たちで誘い合っ、文化祭イベントにチームで参加しました。生徒同士がつながる力に頼もしさを感じました。

生徒ホールの清掃作業 —



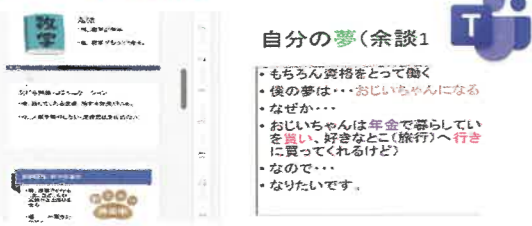
コロナ禍によって増えた消毒の仕事体験をさせて頂いています。感謝の言葉をかけて頂き、役に立つ実感が得られています。今後、自主的にホールに立ち寄る姿が見られることを期待しています。

個別学習 —



個の課題について生徒から声が挙がることからスタートします。通級担当教員と一緒に環境との相互作用を考えながら、自己理解を深め、改善に向けて策を練ります。時には、心を落ち着ける空間となることもあります。

学び合い 例えば… —



発表は不得意だけど、情報の授業は得意な生徒が、教員と「teams」を使った事前準備を重ね、小集団でプレゼンをします。豊かな将来につながる力を育てます。

ディベート —



議論する中で自ら発信する、他者の言葉を聞く、仲間に任せる、仲間を助ける等の力を育てます。

国立病院機構和歌山病院小児神経科の紹介

国立病院機構和歌山病院 医師 南 弘一

小児神経外来とは？ —

和歌山病院に開設して約1年半経過した小児神経外来は、日高圏域市町からご紹介いただいた発達の遅れに関する就学前や小学生の子どもさん、小・中学校や近隣医療機関からご紹介いただいた神経発達症、不登校の子どもさんが中心です。

「発達障害」はよく聞かれると思いますが、2013年に発表された精神障害の診断マニュアルで、「神経発達症」が採用されました。神経発達症は、情動・学習能力・自己コントロール・記憶などさまざまな知的活動に影響する脳機能の障害といわれています。神経発達症には、知的能力障害・自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・限局性学習症・発達性運動能力障害などが含まれています。

診察・治療の内容 —

当外来では、神経発達症の疑いがある子どもたちを保護者から発達成育歴を聞き、観察して診断や見立てを行い、日常生活の過ごし方、療育活動、進路などいろいろなことを一人一人に十分時間をかけて診察しています。神経発達症を抱えながら、学校生活で適応が難しく不登校になっている子どもたちも多いです。そのような子どもたちと家族も含めてサポートできるような外来も目指しています。

さらに注意欠如多動症では、学校・家庭でのさまざまな困り感について環境調整などを行っても改善しない場合は、相談の上、薬物療法についても検討します。

昼夜逆転していたA君 睡眠を調整してみると… —

不登校の子どもたちは、悩みを持ちながら、両親、先生、友人にもうまく表現できないことが多く、ゲームの世界に没頭し、睡眠のリズムがかなり乱れて朝起きられない人もいます。病院に来たらすべてが解決するわけではありませんが、ほとんど学校に行けなくて昼夜逆転の生活を送っていたA君（中学3年生）がやっと来院し、高校に行きたい意思を示し、睡眠リズム調整目的の入院（約2週間）を行いました。入院中は運動不足になっているので理学療法（リハビリ）を行っただけです。退院後、学校に行き出すわけではありませんが、少し睡眠時間に変化があり、家庭内でも徐々に微妙な変化が起こり、無事高校も合格して中学時代とまた違う生活を始めることができました。

周りの大人ができること —

このような生徒の診察を数名経験して、親子間での緊張、子どもなりの不安などありますが、少し距離をつくり、環境を変えるだけでも子どもなりの回復力を目覚めさせるきっかけになると実感しています。子どもには精神的な成長とともに何とかしたい自己改善力を持ち合わせていると信じ、関わってあげてほしいと思います。

当 院の設備の関係で、すべてを完結できないため関係機関との協力も必要になりますが、日高圏域の子どもたちと保護者のために、少しでもお役に立てればと考えているため、気になる方がおられましたら当院の地域医療連携室にご連絡いただければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構 和歌山病院 小児神経科 月曜午後（要予約） 電話0738-22-3256

